



いなば 暁司
稲葉 暁司
(超党派虹の会)

教育

富士宮市のひきこもり及び不登校対策について

問 狭隘な青少年相談センターをどのように改善していくのか。

部長 現状の課題に教育支援センターに通わせたくても保護者の送迎が難しいことから通うことができない児童生徒への対応がある。これを改善するため令和7年度は北部地区、芝川地域の公共施設を利用し教育支援センターを試行的に設置する。

問 富士宮市教育委員会では令和6年度の富士宮市教育カウンセリング講座が開催されたが、終了した人たちにどのような役割を期待するのか。

部長 令和6年度は9月から10月に全5回の基礎講座と1月から2月に全3回のスキルアッ

プ講座を実施。受講された方々にはそれぞれの家庭や職場等において講座で得た知識や技術を役立てていただきたい。

問 不登校に対する理解を広げる取組の必要性をどのように考えているのか。

部長 周囲の人たちが不登校の原因やその影響を理解することは問題解決の第一歩。啓発活動やワークショップを通じた不登校に対する正しい情報の提供、学校や教育機関と連携した講演会の実施などは市民の方々に正しい理解が広がり不登校のこどもたちに対して偏見を持つことなく温かく見守る環境が醸成され、こどもたちが安心して成長していける居場所づくりに寄与すると捉えている。



あかいけ ひろもと
赤池 弘源
(明和)

産業振興
市 民

木育による子育て支援について

問 「ウッドスタート宣言」をする考えはあるか。(こどもたちの成長に木のぬくもりを取り入れるまちの約束)

部長 新年度に計上した出生記念のためのフォトフレームでまず第一歩を踏み出してみたいと



いう気持ちである。その先に、市民の声であるとか、木材関係者から話が出てくれば、次のステップに進むというのも一つである。

防犯フィルム設置補助金について

問 防犯フィルム設置補助金を本市としてはどのように考えるか。

部長 最も多い侵入経路は、鍵の閉め忘れなどの扉や窓からの侵入である。まずは居住者自身による施錠の徹底が重要である。防犯フィルム設置補助金については、有効性を研究していく。

富士宮市と自治会活動の在り方について

問 デジタル技術を活用した活動支援の今後の計画・課題について伺う。

部長 区長会連合会と連携し、デジタル化に関する内容の研修会を開催している。令和5年度には「区ホームページ作成に至るプロセスと現状及びその効果について」、令和6年度には「自治会運営に役立つLINEの活用方法について」を実施した。課題としては、自治会役員のデジタル技術に対しての得意、不得意があるため、導入以降の運用や管理が課題と考える。

